

# 「江戸軍学」細見！

## 江戸時代の城の設計概念図をみてみよう

城を築くことを「<sup>しろとり</sup>城取」といい、赤穂ゆかりの山鹿素行（<sup>やまが そこう</sup>甚五左衛門）をはじめとした江戸時代の軍学者たちは、理想の城郭設計をめざして図のような「縄張り図」を数多く考案していました。

まずは彼らが作成した江戸時代の理想の「城取」像をみてみましょう。

【図1】をみると、縄張り内の構造物に対して、文字による説明があることがわかりますね。一体どのようなことが描かれているのでしょうか。

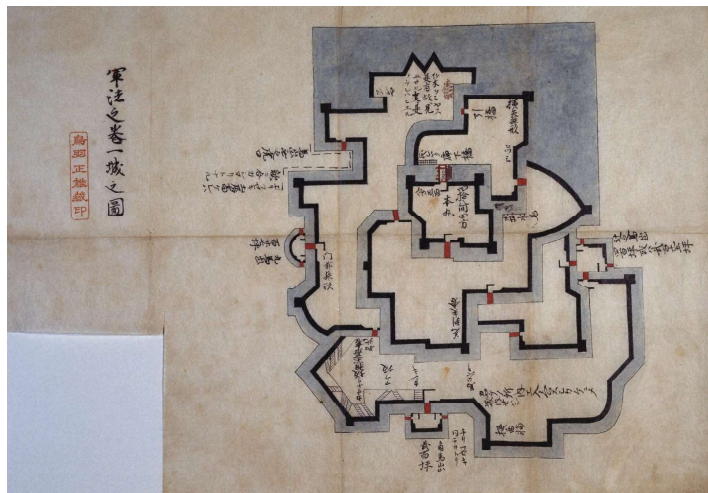


図1 軍法之巻一 城之図

### 1 馬出（うまだし）

城の出入り口のことを「<sup>こぐち</sup>虎口」といいますが、馬出というのは、虎口の外側にさらに築かれた空間（<sup>くるわ</sup>曲輪）のことを指します。その形状により、四角い「角馬出（図2）」、半円形の「丸馬出（図3）」、通路が四方に伸びる「辻の馬出（図4）」などがあります。県内では篠山城で角馬出がみられます。



図2 角馬出

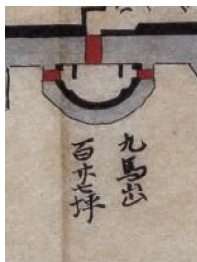


図3 丸馬出



図4 辻の馬出

### 3 坂（さか）

城郭には敵の侵入を防ぐために堀の内側に土塁や石垣が築かれていました。これらに昇り下りするための坂の種類として「カンキ（<sup>かんき</sup>雁木）」、「アフ坂（合坂）」、「カサナリ坂（重り坂）」の三種類が紹介されています。

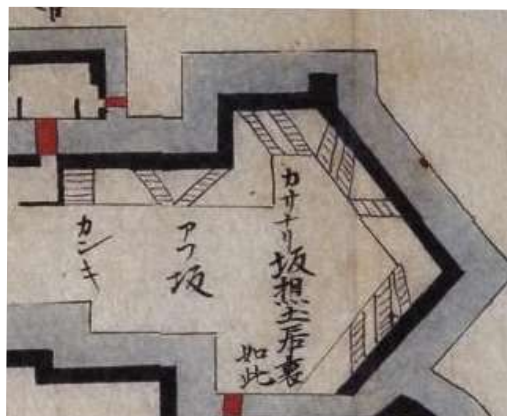


図8 武者走

### 2 橋（はし）

城の内と外を分ける重要な役割を果たす橋についても様々なものがあります。引橋は時間によって橋を引いて城の内外、あるいは曲輪どうしを遮断するもの。廊下橋は外からの視線を遮断するために橋の両端に塀を設けたり、あるいは【図6】のように櫓を渡したものです。【図7】は橋を斜めに架けた筋違橋を表現したものでしょうか。



図5 引橋



図6 廊下橋



図7 筋違橋？

いかがでしたか？このほかにも虎口の枡形や、敵の侵入を羽音によって知らせしてくれる水鳥、あるいは外部からの視線を遮断する竹木など、様々な工夫がみられますので、どこに描かれているのかぜひ探してみてください。